
卷 頭 言

洋の東西を問わず、異常気象が大きな問題になっています。

予想できない程の高温や降雨量・干ばつなど、地球上の至る所で災害が発生していることを耳にします。北海道でも今夏は例年よりも暑い夏でした。

数年前のことですが、気象関係の仕事をされている方との歓談の中で「異常気象も三年続くと、これが標準年になりかねない」とのことを伺いました。自然現象が何らかの原因で変わりつつあることを認識せざるを得ません。

私たちの生活環境が変化することになれば、その影響が及ぶ範囲は計り知れない程に大きなものがありましょう。

このことを考えると、私たちの食糧供給源になっている農業への影響を心配しないわけにはいきません。

北海道の農業は、寒冷地農業というほどに寒冷地を適地とする作物を栽培し、我が国最大の食糧供給基地としての役割を担っております。作物についても高品質・高収益をあげるために、農業の研究・指導機関も努力されていることは承知しています。

しかし、築き上げた農業も地球温暖化傾向が進むようであれば根本的に農業の経営方針をも変更せざるを得なくなるのではないかと心配になります。

測量の知識・技術が、今や空間情報社会を構成する重要な分野になりつつあることを思えば、変化する自然現象に対応する力を発揮する時代なのかもしれないと考えます。

地球温暖化対策など社会的ニーズが高い環境・エネルギー分野に、測量・空間情報技術を活用する企業も出てきていることに期待が膨らみます。
